

船に住む 中国広東省珠江デルタ

長沼 さやか ながぬま さやか
総合研究大学院大学文化科学研究科

南

船北馬」という言葉を一存じだろ
うか。中国の交通手段は、北方で
は馬、南方では船が用いられると
いう意味である。移動という共通点によつて並べ
られた両者であるが、活動の場はそれぞれ異な
っている。たとえば船は、馬では走行できない水
上を移動することができるだけでなく、屋根を
かければ住まいにもなりうる。

中国南部には、広大な流域面積をほこる大河・
珠江が流れている。珠江には、いくつもの大きな
支流があり、それらはさらに大小の水路に枝分
かれている。地図を見ると、まるで網の目のよ
うだ。中国南部ではこうした水路を利用した
水上交通が、古くから発達してきた。

珠江の河水が運んだ土砂が堆積してできたの
が、珠江デルタであり、その大部分を有するのが、
広東省である。この土地はたいへん肥沃であるが、
古くは海水による塩害に悩まされ、農業には適
さないとされてきた。そのうえ、雨の多い季節に
はしばしば洪水がおこり、田畑や家が流される
ことも多かった。このような厳しい自然環境が、
移動可能な船を住居にする、という発想を生み
出したであろうことは、想像にかたくない。こう
した船に住む人びとのほとんどが、低所得者で
あった。

小船に、一家五、六人が暮らすこともめずら
しくなかった。漁業、渡船、水運、その他の労働

など、貧しい彼らの職業はさまざまだ。陸に住
む人びとは、懸命に食いぶちをかせぐ彼らを、と
きに「蜚家」とよび、さげすんだ。そのため差別
の意味を含まない「水上居民」という名が、現
在では一般的に用いられる。珠江デルタの河口
付近には、こうした元水上居民の人びとが住む
村が点在している。

と

ある漁村に暮らすフアおじさんの祖先
も、かつて漁をしながら各地を転々と
していた水上居民だった。陸に家をも
つていなかった。漁民は船に乗っている時間がほと
んどだから、家は必要なかったのだという。一九
三〇年代に日中戦争が勃発、日本軍が広東の
中心部を占領すると、戦禍を避けて珠江の下流
へと移動した。そうしてゆくうちに、河口に近い
現在の村にたどり着いた。やがて戦争が終わり、
新しい国家ができると、それを機会に村に定住
した。しかし、立派な家を建てた今でも、やはり
出漁中は船に寝泊りする。現役の漁師フアお
じさん夫婦もひとたび出漁すれば、一月は村
に帰れない。その間、船は乗り物、作業場、住ま
いの三つの役割を兼ねる。川は風呂場になり、ト
イレになり、洗濯場になる。漁船には生活に必
要なコンロやナベ、毛布などがそろっており、通り
かかった川辺の市場で買った米や野菜、売り物に
ならない雑魚が、船のうえの食卓にのぼる。
フアおじさんに「どうして昔、船に住んでいた



春節（旧正月）に村に戻り、岸辺で網をつくらうフアおじさん（手前）。船に
いるのは奥さん。

のか」と聞いた。彼は困った顔で笑いながら「漁
をするのに便利だったから」と答えた。一風変
わった暮らしをしていたせいでも、ときに「水上の
民族」などともてはやされた彼らだが、船での
生活を選んだ理由は、意外にもシンプルで合理
的だ。「でもやっぱり家に住める今の暮らしはい
いよ」ともいう。

かつて船は、水路の発達した地方において、陸
上を走ることよりもずっと便利な乗りもののだっ
た。しかし自動車普及し道路が整備されたとい
ま、珠江デルタにおいて、船に住むことはもはや
合理的な生活様式ではなくなりました。の
かもしれない。